

『摂南大学教育学研究』第10号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会
委員長 深 川 八 郎

この度、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University) 第10号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本研究会は、摂南大学教務部教職教室の教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職教室の研究事業として十年の歳月を刻むこととなります。

本年度後期から4年次生の「教職実践演習」が始まりました。この科目は教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。つまり、教育実習も含めて教職課程で履修した内容をもう一度振り返り、4月から「教壇に立てる」教師を目指す科目であると言えます。それだけに日々の授業を実践して行く力だけではなく、個として子どもたち一人ひとりを指導して行く力と集団としての学級を経営して行く力が求められることとなります。もちろん最初から上手くいけばありません。その為には自己の能力を日々省察しながら教師としての「教える行為」とともに「学び続ける」姿勢が求められると思います。そういう意味からはこの科目は教師として生きていく上で、自己省察を促すキッカケを与えてくれる科目であるかもしれません。

今、情報化社会の目まぐるしい進展と都市化された社会の中で、私たちは孤立化した生き方を余儀なくされ、人間の本来性である「共同性」を失いつつあります。そのしわ寄せは子どもたちや青年層に一番いつているのかもしれません。そういうことを考えた時、先ずは大人たちがつながり合い、人間の「絆」を回復して行く日常を創り出していく努力が求められているように思います。

初めての「教職実践演習」を履修し、教員免許を手にして教壇に立つ本学の卒業生が素晴らしい実践家として成長してくれることを祈るばかりです。その為に本学の発展と共に教職教室の教育内容が益々充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2014年1月31日

『摂南大学教育学研究』の発行および執筆等に関する申し合わせ

2004 年 12 月 24 日制定

第 1 条 摂南大学教職教室（以下「本教室」という）は、研究および教室活動の成果の発表を目的として、本教室の機関誌として『摂南大学教育学研究』（英文名 *Bulletin of Educational Research of Setsunan University*）（以下「本年報」という）を発行する。

② 本年報は、原則として年 1 回発行する。ただし、必要に応じて特別号を発行することができる。

③ 発行・配布等にかかる費用は、本教室予算の一部をもってあてる。

第 2 条 編集兼発行者は、摂南大学教職教室『摂南大学教育学研究』編集委員会（以下「委員会」という）とする。

第 3 条 委員会は、本教室全専任教員により構成する。

② 委員長は、本教室主任が務める。

③ 委員会に幹事をおき、委員の互選によりこれを決定する。幹事の任期は、当分の間、これを定めない。

第 4 条 執筆者は、当分の間、次のとおりとする。

1. 本教室専任教員
2. 本教室非常勤教員
3. 本学教職課程修了者
4. 本教室専任教員を含む共同研究者
5. その他、委員が必要と認める者で、委員会の承認を得た者

② 執筆を希望する者は、執筆の意思を事前に委員に対し明らかにしなければならない。

第 5 条 本年報に掲載する著作は、次の 4 種に区分する。

1. 研究論文 : 原著性のある研究の成果
2. 実践報告 : 教職教育、学校教育の実践について記述・解説したもので、原著性、記録性のあるもの
3. 資料・文献紹介 : 紹介者の問題関心に即して有意味な書籍、文献、資料等を紹介、解説、評価したもの
4. 特別寄稿 : 委員会が必要と認めて依頼したもの

第 6 条 本年報に掲載する著作の本文原稿（引用注、参照文献等を含む）は、横組みとし、原則として次の分量とする。

1. 論文、実践報告 : 4 0 0 字詰め原稿用紙 4 0 枚程度。（16, 000 字程度）
2. 文献・資料紹介 : 同 2 5 枚程度。（10, 000 字程度）

② 図表等を挿入する場合は、およその挿入箇所を予め指定し、これを含めて前項の分量に収めるものとする。

③ 前項の分量を著しく超えるものは、委員会の議を経て、分割掲載することがある。

第7条 本年報に掲載する著作は、原則として日本語によるものとする。

- ② 外国語により著作を掲載しようとする者は、原則として邦訳文を添付しなければならない。その場合、邦訳文を前条の分量に収めるものとする。

第8条 執筆者は、本文原稿のほかに、次のものを添付して提出するものとする。

1. 本文要約（800字以内）
2. タイトル、氏名、所属、連絡先、著作区分
3. タイトル・氏名の英語表記

- ② 原稿提出にあたっては、本文原稿のほかに前項のものを原則としてフロッピーディスクに収め、印刷物と併せて提出するものとする。

第9条 原稿提出の期限は、委員会が決定し、執筆希望者に明らかにする。

- ② 原稿の受付日は、委員会に提出された日とする。

第10条 委員会は、提出された原稿について、本年報に掲載の適否を判断するため、査読委員会を構成し、査読を依頼する。

- ② 委員会は、当分の間、査読委員会を兼ねる。

- ③ 査読委員会は、提出された原稿を査読し、掲載の適否、修正等に関する意見を委員会に報告する。

第11条 委員会は、査読委員会の報告を踏まえ、原稿の掲載の可否を決定し、また執筆者に対し補筆、修正等を求めることができる。

第12条 校正は、執筆者が行い、原則として2校までとする。

- ② 校正時における原稿の大幅な変更は、これを認めない。

第13条 執筆は原則として無償とするが、特別な印刷等の仕様を要する場合は、執筆者に実費を請求する場合がある。

第14条 本年報の配布先は、委員会が選定する。

付 則 この申し合わせは2004年12月24日から施行する。

編集後記

『摂南大学教育学研究』第10号ができあがりました。

本号では表紙の通り、5本の研究論文を掲載しています。各執筆者の専門、立場から書かれており、バラエティに富んだものとなったと思っております。今号ではじめてご寄稿くださった富岡先生は、本学で主にキャリア教育に関する授業を担当なさっています。キャリア教育と教職課程とは、直接的な関係はありませんが、広く「教育」に関わる話題を提供してくださいました。今後、『摂南大学教育学研究』がさらに充実したものとなるべく、多方面の皆様方からのご寄稿を心よりお待ち申し上げます。

今年度より、「教職実践演習」がはじまりました。開講にあたり、学内外の、本当に多くの方にご尽力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

このことを通じ、さまざまな方の支えがあつてはじめて、学生が教員免許状を手にするのだということを改めて認識いたしました。今後とも、教職課程へご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

2014年1月31日

編集委員・幹事 吉田 佐治子